

釣れ釣れなるままに

2006年思い出の釣行記 PART. 5

ドンビにあらげ



鹿島釣狂

☆開催日	平成18年7月9日		
☆開催場所	様似港～笛舞港		
☆入釣場所	近浦		
☆潮	満潮	23:58	143cm
	干潮	08:07	22cm
☆釣果	アブラコ	46.0	mm
	カジカ	29.8	mm
	重量	514	0g

☆成	績	合計点数	1 2 7 2 点
		成績	3 位
		持ち点	2 点
		累計点	1 0 点 (⑦欠①②)



トンビにあぶらあげ

今回は仲間の話から始めよう。近浦バス停前の舟揚場で5名が降りた。舟揚場右の玉石原にある溝に私、舟揚場の斜路に秦野氏、舟揚場の左に流れるチョロ川を挟んで相馬氏、嵐氏、大前氏が並んだ。嵐氏は過去にここで大釣りしたことがあるので様子見のために入った。しかし、1時間程打ってもアタリが全く出ないので彼の本命場所である下近浦に早々に移動して行った。そこで、横に並んでいた相馬氏が嵐氏の打った場所に移動し、1投目を投げ入れた途端、ガツンと竿尻が大きく跳ね上がったのだ。竿を煽るとものすごい抵抗でガツンガツンと竿を伸され、その後はただただ重いだけで、胸鰭を横に大きく広げ、大口をいっぱい開けたカジカがやってきたのだ。そして、隣にいた大前氏が身長を測ったところ50cmを優に超えていたというのである。

嵐氏が爆弾でカジカを寄せて、今まさに彼のイカゴロに食いつこうとしている瞬間、そのゴロが引き上げられた。そして、すぐに替わりに相馬氏のイカゴロが落ちて来たので慌てて食いついたというわけである。仲間からは相馬氏への喝采に加えて、嵐氏には「辛抱

が足りない」「見極めが大切」と、ヤンヤの罵倒である。実力のある嵐氏だからこそかけられる言葉である。

その様子を釣りの分からない職場の仲間たちに話して聞かせた。

「俺がつぎ込んだパチンコ台で次に座った他人が大フィーバーしたようなものですね。」

「うん、うん」

「貰いでようやくモノにした彼女を友人に紹介したら、その彼女が友人と出来ちゃった時の心境かな。」「そう、そう」

「手塩にして育ててきた我が子を北朝鮮に拉致された。」「あたっていないわけではないが・・・。」

「北朝鮮がテポドンやスカッドなど7発のミサイルを打ち上げた。北朝鮮をかわいがってきた中国と同じだ」「それはちょっと例えが違うような・・・。」

「アタリ馬券を人にくれてやった?」「代わりに買ってやった宝くじが大当たり?」「生命保険の嫌いなお客にようやくその重要性を説得することにこぎつけた。しかし、たまたま勧誘にきた別のセールスマンにお客を取られた。」「住宅や車でもあるね。ようやく買う気にさせたら、違うセールスと契約した。」「スポーツでも。サッカーなんて特に。シュートシーンばかりが画面に出て『ゴール、ゴール。ゴール!』なんて華々しくアナウンスしているけど、アシストは少し紹介されるだけで、素晴らしいデフェンスのプレーはなかなか出てこないものなあ。」「野球の監督交代劇でもあるよなあ。地道に選手を育て上げたが、負け続きで交代させられ、次の年になってその選手たちが華々しく活躍して優勝したという例はよくあるもんなあ。」「相撲で言えば、『うっちゃり』と言うより『勇み足』っていうところか。人のフンドシで相撲をとるというのはちょっと違うね」「ホトトギスがタマゴを温めて雛を孵し、育ててみたら郭公の子だった?」

意味合いが随分と違うのもあるが、「当たらずとも遠からず」というようなところか。落語にもこのようなオチはよく出てくる。せっかく自分が開発した、取って置き穴場を仲間にも教えてたら、次に入ろうと思ったときは満員御礼だったということはよくあることだ。自分の経験談とあわせて、延々とそのマヌケ様について話が続いた。

さらに、私が釣りの奥義を得意げに話しているところを次の一言で遮られてしまった。「講釈ばかりでスコアが伸びないゴルファーと同じですね。」

漁夫の利

さて、私の話に戻そう。本日は大変天気がよい。波も1m~1.5mと予報している。アブラコだけなら山中が間違いのないところだが、嫁のカジカが薄いこともあり、幌満でアカハラをとってからルランベツへ向かうことを考えに入れていた。しかし、用意したキャストを車に忘れてしまった。しかも、山中トンネル付近の磯は「北の釣り会」等で根こそぎ魚は釣られたという。先週開催された「とんとん会」では優勝者が私のもう一つの狙いとしている近浦の溝に入って、1300点台を出した。また、その隣の溝で、堀内氏

が1点差で続いたということである。結局、近浦で堀内、秦野、相馬、嵐、大前氏と共に降りた。辺りには釣り人は誰もいない。狙いとしていた溝に向かってゴロ天秤ネット仕掛けを2本近投し、2本バリ仕掛けを遠投する。すぐに、抜きつ抜かれつしてきた野幌釣り会のバスからゾロゾロと釣り人が降りてきて、近浦付近の全ての溝が釣り人で埋まった。竿道会の福村氏が立ち寄り、「昨年いい思いをしたので来てみたが、どうですか」と問いかけてくる。

釣れない。そして、釣れそうにもない。移動場所を探していると、近浦湾洞を抜けたところにある荷揚げ階段下には誰もいない。3時に移動を終え、階段下左の溝に向かって打つ。波が結構高くて竿が安定せず釣りづらい。ハゴトコ1匹が来たところで、大前氏が防潮堤の上から釣れるかと聞いてくる。そして、先の「トンビにあぶらげ」の話を聞かせてから、下近浦方面に向かって歩き出した。彼が去ってまもなく、波の揺れに任せて放っておいた竿に糸ふけが出たので上げてみると待望のカジカである。30cm程だがようやく嫁ができたので、右方向の溝に移動する。前方に見える大岩はかなり波がかぶっているの、その手前にある低い岩に乗って、遠中近と投げ分ける。

5時ごろ、中投した竿によいアタリが出てアブラコ43cmがあがった。続けて遠投した竿にアブラコ46cm黄色いメス。更に、中投の竿に40cmと35cmがダブルで来た。またまたチョイ投げの竿にアブラコ45cm赤黒いオスがあがった。オスとメスを婿と嫁として審査してくれれば……。しかし、その後が続かない。

7時、更に潮が引いて、前方の大岩に打ち上げていた波も治まってきたので、その岩に乗る。7時半にアブラコ40cmが3時方向30m付近の昆布根からあがった。そこへ、相馬氏がやってきたので「トンビとしては、カジカ50cmは重たかったでしょう。漁夫の利ですねえ」と話すとニヤッと頬をゆるめた後「嫁がハゴトコなのでアブラコをとりに来た。」と言って、左方向の溝に入った。

8時半、今度は秦野氏がやってきた。舟揚場斜路での釣りは、歩く度に踏ん張るために足腰がパンパンになった。そして、特に最近に加齢に伴いゴロタ場での移動に難儀していると言う。秦野氏と話し込んでいると、よいアタリが出た。すぐに竿を手に取り竿を煽ると、ガッチリと根掛かりしている。昆布根から引き抜くために竿を曲げたままじつくりと耐え、時々揺らしてやる。ズルッ、ズルッと抜けてきた。これも40cm級のアブラコだったが、尻尾にスレでかかっていた。

眉唾物

アタリが出ないので電話でのやりとりをする。まず、堀内氏にかけてみる。ツー、ツーと呼び出し音が響いている最中にアタリが出た。携帯をほっぽり出してアブラコを取り込んだところで向こうから電話がかかってきた。「嫁のカジカが来た。30cm級。アブラコは40cmに満たないが4本そろった。」審査ではそのカジカが37cmと計測された。

嵐氏にもかけてみる。「アブラコは40cm。カジカの嫁も来たが30cm。締め切り時刻が

迫ってきたので、竿を1本ずつ片付けていると、最後の3本目にカジカが来た。」審査ではそのアブラコが44cm、カジカが35cmと計測された。

前野氏にもかけてみる。「アブラコ40cm頭に4本、嫁はアカハラ30cm。隣に入った岩本氏がアブラコ50cm他カジカも揃えて大釣りしている。『北の釣り』の田村氏も50cmオーバーのアブラコをあげた」と返ってくる。吉井氏にもかけてみるが繋がらない。執念の粘りを心情とする彼のことから、竿あげ時を迎えて、最後の追い込みをかけているのだろう。

アメリカの実業家であるカーネギーは、

「朝寝は時間の浪費である。これほど高価な出費はほかにない」

と述べた。鉄工業で成功し、ニューヨークに音楽ホールまで建設したカーネギーは、時間を1時たりとも無駄にしなかったとのことだ。カーネギーにとって、一日の始まりの朝の時間は、ことさら大切だったのである。

私は、日常は「春眠暁を覚えず」などと、朝の寝床の温もりに身を任せていることが多いのだが、その惰眠の中で朝寝は人間の弱さの一つでないかとも思うことがある。せめて、釣りの時だけは、「早起きは三文の得」の実践こそ、健康や賢明さのもとになるのだと考えていきたい。

審査結果は

優勝	岩本 満	1467点	(アブラコ464mm+カジカ 367mm+6360g)	琴 似
準優勝	嵐 光博	1332点	(アブラコ440mm+カジカ 352mm+5400g)	下 近 浦
3位	鹿島釣狂	1272点	(アブラコ460mm+カジカ 298mm+5140g)	近 浦
4位	相馬義博	1127点	(カジカ 500mm+ハゴトコ273mm+3540g)	近 浦
5位	前野達志	1117点	(アブラコ424mm+アカハラ327mm+3660g)	琴 似
身長優勝	相馬義博	50, 0cm	(カジカ)	近浦湾洞

となり、千点以上が9人に及んだ。

陽が高いところに昇った。「早起きは三文の得」とはいえ、夜通し釣りに没頭した仲間の臉は今にも潰れそうになって彷徨^{さまよ}っていた。

岩見沢釣遊会第4回大会

えりも町近浦周辺に入釣

良型アブ、カジ

嵐さん優勝



左から2位の仲俣さん、優勝の嵐さん、3位の相馬さん

9日、岩見沢釣遊会第4回大会がえりも港から様似漁港までの間で18人が参加して開催され、アブラコ

の釣りとなったが、嵐さんはえりも町の近浦周辺に入釣。暗いうちはごみに悩まされたが、午前4時ごろから前に出て44匹のアブラコのほか型ものを連発、35・2匹のカジカを加え優勝した。

この日は波2m、場所によってはうねりも入り苦労

型物を揃えた嵐光博さんが優勝した。この日は波2m、場所によってはうねりも入り苦労

た相馬義博さんが入り、身長賞にもなった50匹のカジカを上げたが、もう1魚種は27・3匹のアブラコと小

さかった。私は前野達志さんと様似町コトニのイケスに入り、潮が引くまでゴロタ場でイカゴロとマキエでカジカを狙い、イカゴロ50本を打ち込んだが36匹のカジカのみ。午前4時ごろから平盤の前に出て47匹のアブラコを頭に45匹前後を10匹以上追加して特別賞となった。

(南幌・岩本 満)

▽総合(2種+5) ①嵐

光博1332点②仲俣廣昭

③相馬義博④前野達志⑤吉

井博▽身長 相馬義博カジ

カ50匹

【つれづれ】

○岩本氏 9月の例会に誘ってくれる。庶野漁港～音調津～泉浜 前野、大前氏も参加するという。9月は釣れない。どうしたらよいのか。他会だと恥ずかしい。2種+10匹なのでなおさら難しい。今回、かなりの大釣りだがそれでも8匹+ハゴトコ(+2, 5kg) 1500点 前回でも+4kg(40cm級アブラコ4匹)で1500点 上位入賞は難しいとしても恥ずかしい成績では無いだろう。しかし、そんなに釣る自信はない。

○厚真から高速道路が一部開通した。現在は無料で利用できる。往路は運転手が入る道を通り越してしまった。復路、高速道路に入ったが抜けたところで道を間違える。富野地区を通過して厚真に出た。

○女房は合唱で北見の全道大会に出場した。39団体のうちから全国大会出場の5つの推薦枠に入ったと鼻息が荒い。

○前回は魚の売れ行きが悪かったので職場に持ち込めず。その日の内に処分して、次の日確認してから、三枚に捌いたモノを進呈する。今回はアブラコ3本を、頭、骨、鱗を取って三枚におろしたものを職場の仲間に賞味して貰った。評判はよい。それはそうだ。

○岩見沢の自宅の改修工事をする事になった。岩見沢に着くと外壁材が剥がれており、心配していた内壁の木材は腐っていなかったが、トタンはボロボロだった。女房はオール電化でガスは要らない。換気扇もふさぐというのでそのよう願います。

○岩見沢にフィッシュランドが開店した。しかし、恩義のあるカナダ屋でエサを購入する。ソイアブラコカジカのマキエを買い忘れてもう一度カナダ屋に向かうが、在庫がない。フィッシュランドで購入したが、値段がカナダ屋より随分安い。今回のカナダ屋のイカゴロは品質が悪く提灯状になる。袋物は同じような金額。しかし、冷凍物は70%ぐらいか。

○相馬氏の仕掛けを見るとカレイ仕掛けである。普通の誘導仕掛けにイソメを付けて投げ込んでいる。ハゴトコが来て丁度5本そろったところで時間になったということだ。

○近浦舟揚場に出たテトラブロックの上でやっている人がいる。その前は昆布根が広がっている。その右横の岩にも釣り人がいる。最後まで頑張っていたところを見るとなかなかよい釣果があったのだろう。